



国際・公共政策大学院  
グローバル・ガバナンス・プログラム 2021年修了  
2019年9月～2020年6月 派遣  
YM さん



学術研究と政策への関与を高い次元で実現する国際関係分野のプロフェッショナルを志して IPP に進学しました。論文や書籍、授業を通じて知識と方法論を習得する大学院は、特定分野の豊富な学識を有する専門家の育成に大きく寄与します。しかし、複雑な社会現象である国際関係の理解は容易ではありません。基盤や立ち位置が異なれば同じ物事でも見え方が変わるものであり、グローバル化が進展した今日においても学問の特徴は国境線を挟んで多様です。国際関係を思惟するための新たな視座を求めて、ルーヴェン・カトリック大学に留学しました。

ベルギーは「欧州の心臓」とも称される EU の中心的な加盟国でありながら、オランダ語、フランス語、ドイツ語をそれぞれ母語とする民族の対立による分裂危機を抱える不安定な国家でもあります。そうした特徴が反映された学問のみならず、ファン・ロンパイやモグリーニなどの世界的リーダーの講演を通じて世界の趨勢に思索を巡らす機会が得られました。当時は英国の EU からの正式離脱を迎えるという歴史的な時期でもあり、特異な環境下に各国から集った仲間たちとの多角的な議論を通じて（多くの場合はベルギーのビールを楽しみながら）見識を育んだ日々は得難い貴重なものになりました。

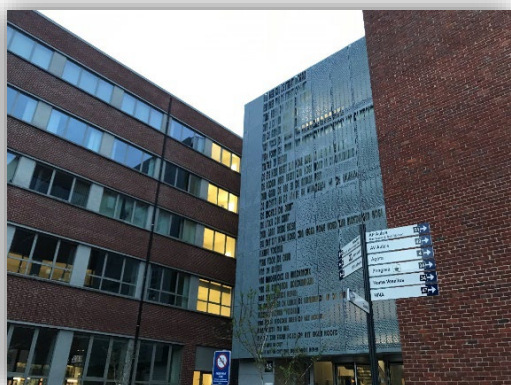


欧州議会

個人的に、大学院では単に知識や技術を習得するのではなく、人としての成長の基盤となる知性や感性を陶冶することを重視していました。人間はどれほど学んでも「無知」であり続けるからこそ、生涯を通じて研鑽を重ね、知見を深め続ける必要があります。COVID-19 パンデミックによっ

て早期帰国を余儀なくされましたが、失意の中でも成長を諦めたくはありませんでした。苦悩と模索は研究の発展に繋がり、海外での論文発表と国内での学会報告という形で結実しました。また、自らの歩みを内省する中で大学院教育の意義深さを再確認し、その愚見を TEDx において発信する機会もありました。留学に端を発する経緯を機に高等教育に携わりたいという想いが将来像に加わり、現在は法学研究科の博士後期課程で学者の道を歩んでいます。

### ルーヴェン・カトリック大



社会科学キャンパス



法学キャンパス



大学図書館内部



大学図書館前広場



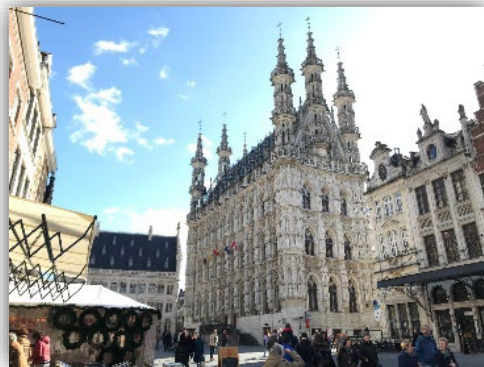
大学図書館外観



ルーヴェン市街



駅前広場



旧市庁舎駅前広場



踏切



運河



ルーヴェン市街俯瞰

ベルギー国内



欧州委員会



欧州議会ビジターセンター



日本大使館



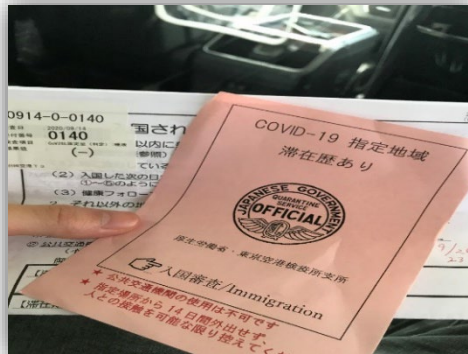
ディナン



イーペル



ブリュッセル クリスマスのグラン・プラス



日本入国時の検疫証明書